



今月の特集

雑誌で話題の“歯医者選び”について ～後編～

昨今、新聞やニュース・雑誌等で度々歯科の話題が取り上げられています。

ハンドピースの使い回し

感染対策

治療の内容について

それもネガティブな話題ばかりです。そして今年、某雑誌の3月29日号に、10ページにもわたり記事が掲載されました。シュンデンタルはどうか？という疑問にお答えしたいと思います。

1

「抗生物質(薬)で歯周病が治る」は本当か？

抜歯原因の第1位の歯周病。次々と新しい“画期的”な治療が登場している。スウェーデンの研究機関が歯科治療の効果を格付けしており高い順に0→10までランク付けしています。慢性歯周炎に抗生物質(薬)を投与するのは、レベル10。すなわち、「効果がないに等しい」と判断されたのです。

※原文のまま掲載(途中省略)

当院では、歯周病治療の患者さまごとに治療計画を立てております。

当院のスタッフは全員が口腔ケアのプロ“歯科衛生士”です。

日々の技術研鑽、勉強会参加で技術/知識のアップデート、適切な処置で皆さまにとって最善の歯周病治療をご提供できるように取り組んでおります。

2

セルフケア指導は必須

歯磨きの癖などを、歯科衛生士にチェックしてもらっただけで、劇的に改善するという。逆に言えば、セルフケア指導に熱を入れない歯科医院には疑問を持つべきだ。

※原文のまま掲載(途中省略)

当院では、来院いただいた皆さまの口腔内を把握し、個人個人に合った清掃器具をお勧めしております。歯ブラシ・歯磨き粉・フロス・歯間ブラシ、お口の状態に合った清掃器具を使用することで良好な状態を維持していただきたい。定期的な新製品清掃器具の勉強会を院内で開催し、全員が知識向上を図っております。

3

「銀歯のインレー」は時代遅れ

虫歯の範囲が比較的小さい場合、「インレー」と呼ばれる銀歯を詰めるのが常識だったが、もはや時代遅れと考えたほうがいい。虫歯になりそうな健康な部分を、あらかじめ削って金属に変える。これが100年前に確立した予防拡大という考え方です。

しかし現在は、大きく削ってしまうと、歯の寿命が短くなることがわかっています。

※原文のまま掲載(途中省略)

当院では極力、保険診療で用いられる金属(銀歯)を使用しない治療を行っております。

銀歯の使用は歯の寿命はもちろんのこと、体への様々な弊害があることも論文で示唆されています。アレルギー反応や皮膚炎等ももしかしたら、銀歯が原因かもしれません。

当院では、マイクロスコープを使用し、削る部分を最小限に留め、適切なマテリアル(素材)を使用した治療をご提案しております。



詳しくはこちらのQRコードから当院のサイトをご覧ください ▶▶▶



あ と が き

今回、たまたま雑誌の掲載記事を目にし、皆さまも同様にお考えのこともあるかと、ニュースレターに書かせていただきました。7月に前編を配布しましたが、今回が後編となります。

シュンデンタルクリニックは、

“医療に真摯に、妥協なく、正しい歯科医療”

をご提供させていただきます。

シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>